

## 令和4年度 佐賀整肢学園・かんざき日の限寮事業報告（総括）

佐賀整肢学園・かんざき日の限寮  
施設長 大島 毅

（総括）

令和4年度の事業計画に基づき、救護施設佐賀整肢学園・かんざき日の限寮（定員70名）の施設運営を行った。

事業の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、県内の感染状況を踏まえ、利用者の活動や業務内容等について、随時見直しを行った。また、事業継続計画（BCP）に基づく想定訓練を行い、内容の検証、周知徹底を図った。

関係機関と連携を密に取りながら、循環型施設として地域や他種別施設等への移行推進、自己実現に向けた各種サービスの充実に努めた。また、地域社会との連携、福祉人材の育成にも積極的に取り組んだ。

地域における公益的な取り組みとして、生活困窮者自立支援法に規定された就労訓練事業、生活困窮者の一時受入事業（独自事業）、生活困窮者に対する相談支援事業（独自事業）を実施した。

利用者の状況として、入所定員70名に対し、年間平均利用者は76.9名（前年度平均76.9名）となり、定員に対する利用率は110%（前年度110%）で推移した。

令和4年度のかんざき日の限寮の決算は、経常増減差額36,100千円で前年の35,523千円に比べ、577千円の増益となり、当期活動増減差額35,456千円、次期繰越活動増減差額376,634千円であった。積立金の総額315,500千円となり、純資産の合計は990,489千円で前年度より24,611千円の増となった。

### 1. 施設設備の整備

#### (1) 機器整備関係

- ・パソコン3台（計502千円）を購入した。
- ・プロジェクター1台（238千円）を購入した。
- ・ガス衣類乾燥機の老朽化のため、入れ替え（1台購入～229千円）を行った。

#### (2) 設備整備関係

- ・一時生活支援事業の実施に向けて、居室2部屋の備品（家電製品等）を整備した（計227千円～佐賀県補助金活用）。
- ・生活困窮者の在宅生活サポートのため、洗濯スペースの整備等を行った。（計621千円～神崎市補助金活用）。

・生活困窮者、災害時避難者の専用シャワーブース（計 2,442 千円）を整備した。（全国救護施設協議会補助金活用）